

# 美粧石を越えてみせる

修明高等学校 1年

鈴木 芽惟（すずき めい）



「みなさんには、夢や目標がありますか。」私にはあります。それは、パティシエになって甘くて美しいお菓子を作り、たくさんの人を笑顔にすることです。夢の実現のために今、修明高校の食品科学科で日々努力しています。しかし、二年前の私は、夢も希望もなく、ダラダラと毎日をごろごろ過ごしていました。そんな私が夢を持つようになったきっかけと目標を持って変わったこととお話したいと思います。

中学2年生の頃、反抗期の私は家族と会話をしなくなりました。母とは顔を合わせるたびにけんかをし、毎日イライラしながら過ごしていました。イライラしていると、何もかもがうまくいかなくなりました。先生方に反発したり、無断欠席をしたり、今考えるとひどいことばかりしていました。しかし、夢や目標を持っていないその時の私は、何のために学校に行くのかがわかりませんでした。さらに、そんな毎日をごろごろしていると、周りの人が何も言わなくなりました。初めのうちは何も言われないことがうれしかったのですが、だんだんとさみしくなって、心に穴が開いたような気持ちになってきました。なぜ、こんな気持ちになるのかもわからないまま高校受験を考える時期になりました。周りの友人たちは志望校を決定していました。一方、私は、それを話題にもできない状態でした。志望校合格を目指して努力している友人たちは輝いていて、自分だけ置いてきぼりにされた気分でした。そのような状況で迎えた三者面談でしたが、心の中で、こんな私に三者面談は意味がないと思っていました。面談中、真剣な表情の母が、「本当は高校に行きたいんじゃないの。」と聞いてきました。見たこともない母親の表情に驚き、何も答えることができませんでした。学校を欠席し、授業も受けていない私が、夢や目標を持つことは許されないのだろうと思いました。そんな私に、母は、「夢に向かってがんばりなさい。」と言ってくれたのです。すべてが中途半端な私に、そう言ってもらえたことが本当にうれしくて、絶対にあきらめずに頑張ってみようと思えました。担任の先生もパティシエになりたいのなら、修明高校の食品科学科を目指そうとアドバイスしてくれました。その日を機会に、高校合格という目標に向かって毎日勉強に取り組みました。しかし、今までの遅れは想像以上に大きく、つらくて投げ出したくなることもありました。すると、周りの対応も変わってきました。今までけんかばかりだった家族や友人たちも励ましてくれたり、応援してくれたりしました。本当に猛勉強の毎日をごろごろ過ごしました。合格発表の日、掲示板の中に自分の受験番号を見つけた時の感動は、これから先、何があっても忘れられない思い出となるでしょう。目標を達成し、努力が報われたと思った瞬間でした。

現在、目標としていた修明高校の食品科学科で夢に向かってがんばっています。専門教科はもちろん他教科にも全力で取り組んでいます。一学期の成績はクラスでも上位に食い込むことができました。何かに一生懸命取り組めることの素晴らしさや夢や目標に向かって、努力できることの幸せを実感しながら学校生活を送っています。今は、あのイライラしていた自分も、猛勉強していた自分も、高校生になった自分も、全部が素晴らしい経験だと思っています。それらを糧に、今後は人間的にも成長していきたいと思っています。

高校卒業後は、専門学校で製菓について学び、棚倉町でお店を持つことが夢です。食べた人が笑顔になるようなお菓子を作り、美粧石と肩を並べるようなお菓子を作り、ふるさと棚倉町の活性化に貢献できるパティシエになりたいと思っています。地域の皆さま、十年後の私を楽しみに待っていてください。